

# 未来照らす 太陽の恵み



誰にでも、あまねく降り注ぐ太陽の光。その光や熱を利用して人は暮らしてきた。そして今、太陽光発電で家庭や電気自動車などのエネルギーを賄える時代が、そこまでやって来ている。私たちが当たり前のように享受している太陽の恵みを意識すれば、すぐにできることがもっとありそうだ。未来を照らすソーラーライフを、身近なところから始めて、「新しい暮らし」を楽しんでみませんか？

水力、風力、バイオマス の山中で電池切れというケなどの再生可能エネルギーだけではなく、公衆電話。日本では、その中でも 少ななくなった町中で電話 太陽光による発電量が急激 を探し回るといふ事態も解に伸びている。個人レベル 消える。かばんに付けて

## 充電器や調理 活用幅広く

での導入が進み、屋根にソーラーパネルを載せた住宅をよく見かけるようになってきた。

小型のソーラーパネルを付けた製品もいろいろ登場している。例えば携帯電

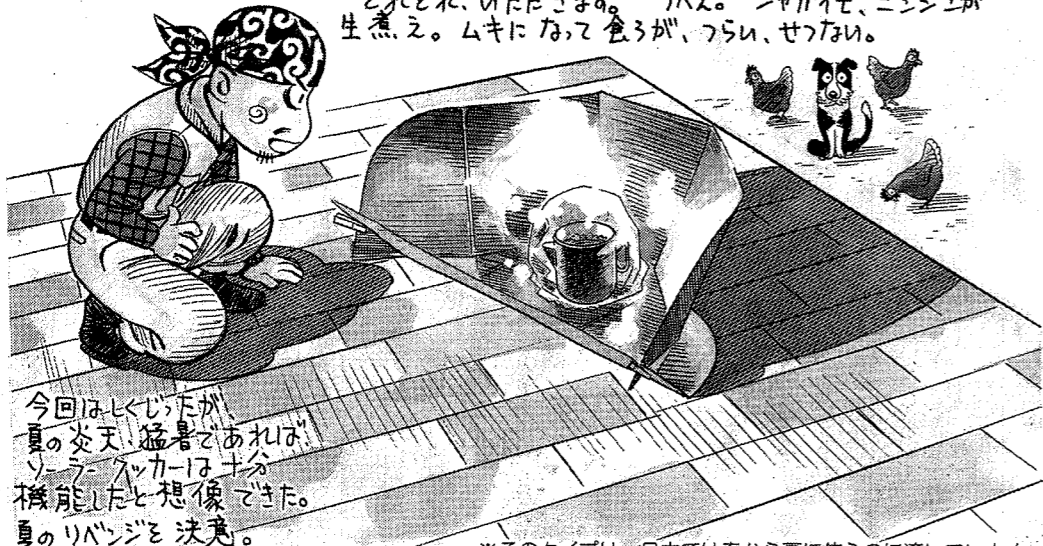
話のソーラー充電器。持ち歩いている場合は、充電しても明かりが使える優れもの。今のところ、

福島県で里山を開墾し、自給自足生活を目指す漫画家の守村大さんが、ソーラーグッズのお試し体験を描いてくれた。

もりむら・しん 58年生まれ、秋田県出身。週刊漫画誌「モーニング」で連載中の「新白河原人」が単行本化の予定。

### ソーラークッカー

みんな太陽の恵みを得るために屋根の上でカレー作り。かなり変な気分。朝8時、調理開始。といつも、具材をすべて鍋に入れ、あとはお日さままかせ。夕方4時、日がかげり終了。いいこち。あち、鍋のヘリが熱くなっている。どれどれ、いただきます。うへえ。ジャガイモ、ニンジンが生煮え。ムキになって食うが、つらい、せつない。

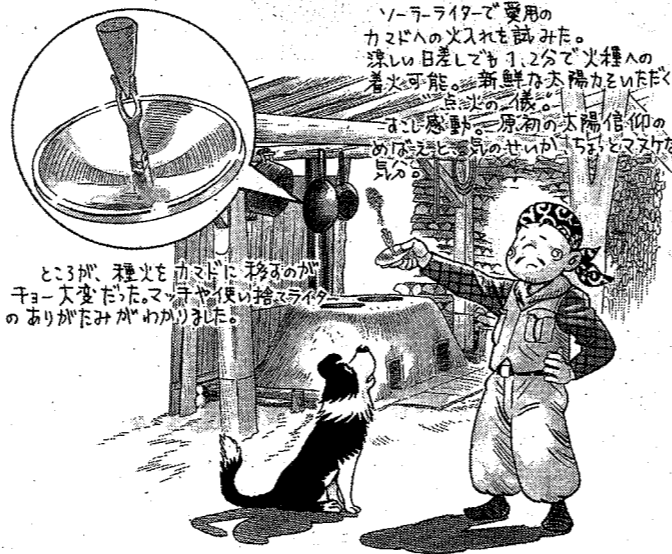
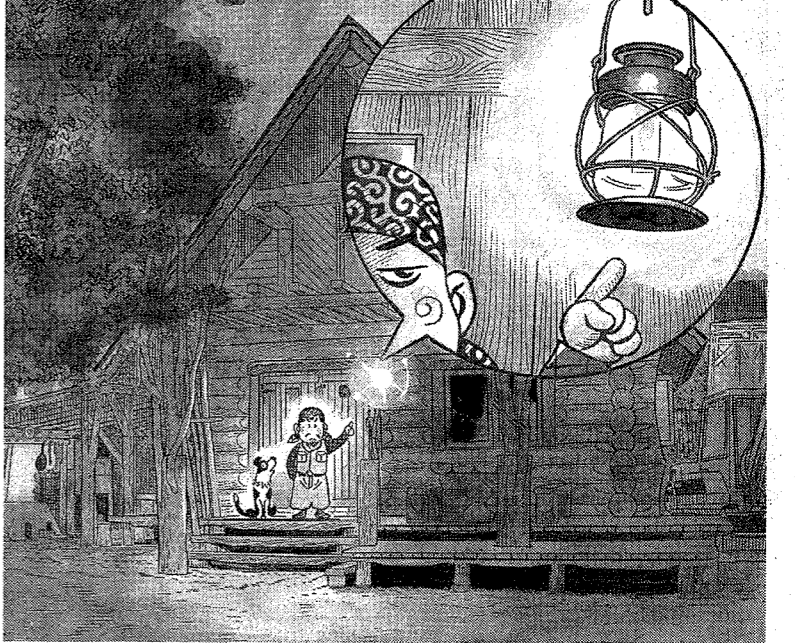


今回は、暑い夏が、夏の炎天、猛暑があれど、ソーラークッカーは、機能したと想像できた。夏のリベンジを決意。

※このタイプは、日本では春から夏に使うのに適しています。

### ソーラーランタン

私の小屋はオール無電化なので、太陽光発電のランタンはありがたい。こりゃいいや、スリロッドに設置する。日暮れになると自動点灯。うわ、暗いなコレ。足元さぼんやり。けれど、目がなれれば、このもうろうがやさしく感じる。現代が明るすぎるのかも、と、ぼんやり考えた。



ソーラーライターで愛用のカマドの火入れも試みた。深い日差しでも1.2分で火種入の着火可能。新鮮な太陽光をためておく。お日さまの恵み。お日さまの恵み。お日さまの恵み。



スリランカの視察団一行をもてなした「ソーラー茶会」=千葉県香取市

条件を整えば、みそ汁や白玉焼きなどが作れ、非常時の煮炊きにも利用できる。バラボランテナのような形のもの、傘状のもの、四角い箱形のものなど、多様なタイプが出ている。

誰もかやっていることだが、布団を干し、洗濯物を日に当てて乾かすのも太陽の力の有効利用。大根などの野菜や果物、魚は干すと、うま味もアップ！

大掛かりな装置に頼らなくても、太陽の力をもっともっと暮らしに生かしていけそう。

## ヒマラヤ高地で活躍中 ソーラー

太陽の力で調理ができるソーラークッカー。日本では種類、季節によつては効果を十分発揮できない場合もあるが、赤道に近い地域や高地では、強い日差しを生かして活躍している。電気などのインフラが普及していない地域だからこそ、自然エネルギーにスムーズに移行できるかもしれない。

インド北部、ヒマラヤ山脈の北側に広がるジャム・カシミール州のラタク地方には、日本の民間支援団体の協力で全戸にソーラークッカーが普及している村がある。

木もほとんど自生していない山



日本の支援で普及しているソーラークッカー=インド北部のジャム・カシミール州

ダック(東京)。太陽の熱で煮炊きすることで低地にまきを取りに行く労力を省けるようになった。貴重な木材は住宅用など、他の用途に使うことが可能になった。

特に役立つのは、冬が凍る。雪を鍋に入れてクッカーにかけておけば、飲用だけでなく洗濯にも必要な水が得られる。重労働となる水くみもしないで済む。

住民からは「使い方が簡単」「お金がかからない」「楽しい」と反応も良いという。

同地方出身のジュレー・ラタク代表、スカルマ・ギルメットさんは言う。「貧しさをうに見えても、ラタクには「自然」とともに生きるという未来のモデルがあると「思います」

### 千葉で「ソーラー茶会」視察団おもてなし

昨年10月、ソーラークッカーを使ってお茶を立てる「ソーラー茶会」が千葉県で催された。日本ソーラーエネルギー教育協会(東京)の白井伊征子さんが、視察のため来日したスリランカのチャンドラセリ・スーリアラチ社 会福祉副大臣らの一行をもてなした。

昨年、白井さんがスリランカを訪問した際、スーリアラチ副大臣らの前で、ソーラークッカーでごはんを炊き、オムレツを作った。白井さんは「太陽の光が豊かで、お湯を沸かすのも簡単でした」と話す。

それを見て同副大臣は「太陽光パネルを使うような製品よりも(ソーラークッカーのような)シンプルな技術の方が、スリランカに取り入れやすい」と感じたという。